

紛争地の子平和へ一本

次代のホープたちが国際交流を深めながら競い合うサニックス旗福岡国際中学生柔道大会(西日本新聞社など主催)が26日、福岡県宗像市のグローバルアリーナで開催される。第8回大会の今年は、イスラエルとパレスチナの中学生柔道チームが初めて参加することとなった。紛争地域の選手が日本国内で一堂に会するのは極めて珍しいという。

国際中学生柔道 26日 宗像で



今年7月、イスラエルのエルサレムで開かれたイスラエル選手(手前右)とパレスチナ選手の合同柔道教室

イスラエル、パレスチナ 初参加



橋渡し役の山下泰裕氏

「組み合い、心で相互理解」

橋渡しをしたのは、1984年のロサンゼルス五輪金メダリストで東海大学体育学部長を務める山下泰裕氏(53)だ。山下氏は今年7月、外務省と国際交流基金の要請でイスラエルのエルサレムを訪れ、イスラエルとヨルダン川

西岸地区を含むパレスチナの子どもたち約60人に柔道を指導した。その際に大会への招待を打診。「柔道の自他共栄の精神をぜひ、日本で学びたい。またないチャンスで感謝したい」と両チームとも同意した。

山下氏は「お互い戦争という不幸で、交わることのない子どもたちに柔道を通して、和の心を伝えることができた」と期待している。

来日するのはイスラエル、パレスチナとも柔道連盟に所属する13歳から15歳の中学生の強化選手。両チームとも00人が参加する。山下氏も訪れる。

サニックス旗福岡国際中学生柔道大会にイスラエルとパレスチナ選手を参加に導いた山下泰裕氏(写真)は、東海大学体育学部長。真に舞台裏と今大会への思いを聞いた。

(客員編集委員・加藤暁子)

—両チームの選手を大会に招きたいきざしは、山下氏 今年7月、日本の外務省と国際協力基金の要請でイスラエルとパレスチナの子どもたち

—柔道教室を開いて感じたことは、山下氏 最初はぎこちなかったが、異文化の壁を乗り越えて両者が組み合い、純粋な心で相互理解ができた。柔道を通して、相手を敵ではなく、尊敬する人として認め合う和の心を理解してくれただと思っている。両チームの柔道協会の方々、柔道の延長線上に平和が少しずつ見えてくるという喜んでくれた。

—山下氏は発展途上国に柔道場をつくる手助けや、着古した柔道着や畳表を贈るNPO法人柔道教育ソリタリティーの理事長を務めているが、山下氏 今回の来日もこのNPOを通して招待した。柔道を通して日本の心を伝え、平和に貢献できたなら4年前に設立した。選手時代や国際柔道連盟の理事として世界に出てみて痛感したが、お互いの立場から見ないと真実が見えてこないことだった。

「怒らせたのは海老蔵さん側」伊藤容疑者が供述

歌舞伎俳優の市川海老蔵さん(33)が殴られて重傷を負った事件で、傷害容疑で逮捕された伊藤りオン容疑者(26)が、警視庁の取り調べに「呼び出されて現場の飲食店に行ったら、海老蔵さん側に自分腹立たせることがあった」と供述していることが14日、捜査関係者への取材で分かった。

海老蔵さんはこれまで事情聴取に「酔いつぶれた(元暴走族リーダー)男性を介抱していたら、因縁をつけられていきなり殴られた」と説明していたが、この男性は伊藤容疑者を現場に呼び出したのは、この男性の弁護士によると、男性は「海老蔵さんに暴行されてけがをした」などと主張しているという。

「自分から因縁をつけたわけではない」とする伊藤容疑者側と主張が食い違っている。

捜査関係者によると、発砲した海老蔵さんは11月25日未明、東京・西麻布の雑居ビルで、元暴走族リーダーの男性ら数人のグループと知り合い、11階の飲食店でトラブルになり殴られた。この店の関係者は「現場は店内の個室で、暴行の様子は見えていない」と話しているという。

伊藤容疑者を現場に呼び出したのは、この男性の弁護士によると、男性は「海老蔵さんに暴行されてけがをした」などと主張しているという。

「OB在籍会社への支援態勢が崩壊する」。2005年4月に開かれた空自補給本部部長会議で、第1補給処長の発言。空自は04年度以前から、年度末の余剰予算を使い切るため流用。第1補給処はOB在籍会社やしがらみ会社と随意契約を結んでいたが、一般競争入札への移行が避けられなくなり、補給本部の幹部らは頭を悩ませていた。

補給本部の副本部長も

銃乱射3年 佐世保 現場のスポーツクラブ 長崎県佐世保市のスポーツクラブで8人が死傷した散弾銃乱射事件から14日で3年を迎えた。現場のクラブはいつも通り営業し、朝礼ではスタッフら11人が黙とうをし、亡くなった2人を追悼した。

事件は2007年12月